

田村のつぶやき 第17号

2024.1.29 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

『銀行型』の学習から『料理教室型』の学びへ

1990年代初頭のバブル崩壊後、戦後の高度経済成長期を経て築き上げた日本の社会システム（例えば終身雇用と年功序列による日本的経営）が音を立てて崩れ始めました。そこから「失われた10年」、「失われた20年」と言われ、気がつけばすでに30年が経過しました。グローバル化や情報化の進展による急速な変化によって、現代社会は予測困難な時代となりました。こうした変化の激しい時代のことを、「VUCA（ブーカ）」と言います。VUCAとは「Volatility（ボラティリティ：変動性）」、「Uncertainty（アンサートゥンティ：不確実性）」、「Complexity（コムプレクシティ：複雑性）」、「Ambiguity（アムビグイティ：曖昧性）」の頭文字を並べたものです。もとは冷戦後より戦略が複雑化した状態を示す軍事用語でしたが、2010年頃から、「VUCA ワールド」「VUCA 時代」のように、主にビジネスの世界でも用いられるようになりました。VUCAに込められた4つの単語が示す通り、VUCA時代とは変動性が高く、不確実で複雑、さらに曖昧さを含んだ社会情勢を示しています。軍事用語、ビジネス用語であったVUCAという言葉は、コロナ禍という未曾有の環境変化に突如置かれた教育現場においても当てはまることとなりました。こうした社会では、求められる知識やスキルは絶えずアップデートされます。高校在学中に自ら学ぶ姿勢を身につけ、学び方そのものを学んでおくことが（第8号も参照してください）、これからの時代を主体的に生き抜いていく上での必須条件となります。多様化する社会では、新しい環境に合わせて常に「学び」や「学び直し」を行う必要があります。学校卒業後も生涯学び続けていくことが求められます。

キャリア教育が専門の法政大学の児美川孝一郎（こみかわ こういちろう）教授は、これからは『銀行型』の学習で獲得する能力から、『料理教室型』の学びで身につける能力への変化が必要であると述べています。「銀行型」の学習とは、知識や技能を学び、それを預金のように貯め込んでいき、必要に応じて預金しておいた知識や技能を引き出しながら、仕事や人生を送っていくやり方です。そのままでは預金は減る一方です。これに対して「料理教室型」の学びとは、料理の基礎・基本は教えてもらうけど、その後は、自分なりの料理法や味付け、使う食材などを創意工夫して、自分なりのレシピを完成させるやり方です。「銀行型」の学習よりもはるかに自由度が高く、応用範囲も広いです。

これから必要とされるのは、「料理教室型」の学びです。基礎・基本となる知識や技能だけで、生涯にわたってやり繰りできるわけではありません。時代とともに知識や技能はすぐに使い物にならなくなります。冷蔵庫にあるあり合わせの食材で料理をする応用力が必要です。だからこそ学校での学びを通して自らが学ぶ習慣を身につけることが大切です。学び方を学ぶ必要があります。そうして身につけた知識や技能を活用して、課題解決を図る必要があります。これからの時代に求められるのは、「事前に蓄えた知識」ではなく、「自ら知識や技能を獲得していく力」です。

【参考】児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）